

おもしろいね！が、きっとみつかる

シニア世代の地域デビューを応援！
～アッティーヴォ～

attivo

「attivo (アッティーヴォ)」とは、イタリア語で「活動的な、行動的な」という意味です。

みやシニア
活動センター
通信 vol.46

(令和4年1月発行)

日本シリーズに大興奮

今年の日本シリーズは面白かった。大方の新聞でも評論家でも、どれを見てもそういう話になっていた。自分もそう思った。毎日夕方6時が待ち遠しかった。ライオンズ覇員の自分はここ数年、日本シリーズは見なかった。今年はセ・パとも前年最下位のチームが日本シリーズを戦う。そういう両チームの日本シリーズは興味があった。第1戦、山本投手はいいピッチングをしながらも先制された。ヤクルトの作戦が当たったとか。でも最後はオリックスの勝利。緊迫したいい試合だった。オリックスの本領が発揮されたのは第5戦であった。8回の裏に追いつかれ、またかと思った。ヤクルトは本当に強い。しかし9回表、代打ジョーンズ選手のホームラン。勝てた。そして第6戦、展開的にはオリックスが勝つムードだった。しかし、魔の12回表2死から点を取られた。終わった。今年のオリックスは若い選手が多い。まだ数年は強くなっていくだろう。昔のライオンズ、そしてソフトバンクを見るようだ。我がライオンズも来年は、今井投手に1本立ちしてもらって優勝してほしい。



① 待山さん



② 丸山さん



③ 島田さん

① みんなに愛される通り「コスモス街道」

待山 妙子さん

② 第二の青春を謳歌する

丸山 昇さん

③ 民話と放送大学とシルバー大学校と島田新一さん(前編)

～編集部から一言～ 皆さんは、シニア特派員をご存知ですか？

シニア特派員とは、豊富な知識や経験を持ったシニア世代が、本市の進めるまちづくりや地域社会の展開において一層活躍できるよう支援するため、本市が囑託し様々な活動を行っている皆さまです。特に、この通信誌を発行するために必要な掲載者の選定や取材、記事の執筆を行っています。皆さま、シニア特派員が取材の際は、ご協力をお願いいたします。

○ 発行／編集 みやシニア活動センター（宇都宮市 保健福祉部 高齢福祉課）

住所：宇都宮市旭1丁目1番5号 宇都宮市役所2階 高齢福祉課D8窓口

電話：028-632-2368 ファクス：028-639-8575

ホームページ：<https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp>

① みんなに愛される通り「コスモス街道」 待山 妙子さん

取材：細川みち子特派員

小春日和のある日、今回ご紹介する待山妙子（まちやまたえこ）さんをお訪ねしました。伺ったのは、公園前の日当たりの良い自然環境に恵まれた瀟洒な佇まいのお宅でした。まさに、引退後はこういう所でノンビリ暮らしたいと憧れるようなお宅です。待山さんのご出身は千葉県ですが、ご主人の仕事の都合で東京、横浜、神戸、大阪など各地を転居され、宇都宮には30数年前に引っ越して来られました。その後も、ご主人には転勤の辞令があったそうですが、お子様の高校進学を機にご一家の拠点を宇都宮に決め、ご主人は単身赴任という生活を始められました。なぜ、待山さんは宇都宮を定住の地に選んだのでしょうか。「子供たちが進学の日々であったこと。高速道路や新幹線の駅があり、交通の便が良いこと。気候が穏やかで災害があまり無いこと。商業施設が充実していること。親切な方が多く、穏やかな人間性でギスギスしていないところに魅力を感じました」と待山さんは話されます。

住んでみると、宇都宮の中心に二荒山神社があり、市民は生活の節目には参拝し、二荒山神社に由来した多くのお祭りや城下町特有の街道や街並み、特に当時の町名を知るたびにワクワクしたそうです。待山さんは、そんなワクワクを油絵に描かれます。新型コロナウイルスの感染防止緊急事態宣言以前までは、中央生涯学習センターで油絵の2つの会の代表を務めておられましたが、コロナにより残念ながら、今年2つとも解散してしまいました。これまで、



センターの秋の文化祭や展示会に出品されています。待山さんは、中央生涯学習センターの「利用者連絡協議会」役員当時、旅行会のお世話や文化祭のスタッフとして長い間ご活躍され、昨年まで「生涯学習センター審議会」「宇都宮市民大学運営協議会」の役員を務められ現在は「中央生涯学習センター文化祭実行委員会」の会計として文化祭を支えて下さっています。地域自治会では「福祉部長」として、独居老人の食事会や演芸会を企画担当していらっしゃいますが、今はコロナ禍で行えません。早く収束して再開したいとおっしゃいます。



また、公園の清掃やごみ拾い、公園での子供のケガの手当て、遊具・設備等に不備があれば管轄の担当の方に連絡をするほか、不審者通報など防犯にも気を配られています。

さらに、近くの川の護岸の崩れ（蛇籠の破損）の通報や川沿いの道路の草刈りをして「花の種」を蒔いて、通行する方々を楽しませておられると同時に、皆さんに声を掛けられています。今では、「コスモス街道」や「挨拶通り」と愛される通りになっているとのこと。「老後はノンビリ絵を描いて」という言葉は待山さんには当てはまりませんでした。「私は夫の転勤で、いろいろな方にお世話になりました。その恩返しをここでしています。健康第一。千葉に帰る気はありません」とおっしゃいます。

「こんにちは」「車に気を付けて」待山さんのよく通る声が、コスモス街道に響きます。その手には、今しがた拾われた空き缶が握られていました。

② 第二の青春を謳歌する

丸山 昇さん

取材：猶原特派員



1 1月初め、改修工事中の中央生涯学習センターで丸山昇（まるやまのぼる）さんにお話をお聞きしました。

丸山さんは、中央生涯学習センター文化祭実行委員会会長として、令和3年度の文化祭の取りまとめを務めました。各地区の生涯学習センターでも3密を避けるため規模の縮小や中止等の色々な対策を行うなど、昨年引き続きコロナの影響を受けました。ここ中央生涯学習センターでも、実行委員会の皆さんが打合せを重ねた結果

大勢の方が1か所に集まるのではなく、分散してグループごとに集まっていたいただき、動画撮影で対応することに決め、その準備に追われたようです。具体的には会場を2か所準備し、出演クラブの撮影タイムスケジュール表を作成し、2日間に渡り行いました。出演される皆さんも動画撮影には初めての方も多く、モニターで映り具合を確認しながら練習や本番に臨まれていました。現在は、DVDへの編集やYouTube（宇都宮市中央市民活動センター YouTube で検索）にアップする為の準備に追われている様子でした。

丸山さんと中央生涯学習センターとの関わりは、25年前に写真の月例会場として使用させていただいたのが始まりとか。平成17年に参加団体で交流を深めるために協議会を立ち上げ、学習会や見学会など様々な行事を実施され、楽しい思い出が一杯の会でしたが、平成23年の東日本大震災後解散されました。長い間には解散したり、新しい会が出来たりと、時代の流れに影響されているようです。丸山さんの1つ目の趣味は写真撮影です。カメラとの出逢いは、中学生の時に蛇腹カメラから始まり、押し入れを現像場所にして、だんだんカメラに夢中になったそうです。社会人になり中断していましたが、退職後シルバー大学の写真クラブに入った時から、本格的に再開されました。卒業時には23期卒業アルバム作成に係わり、卒業後「彩の会」を立ち上げました。春と秋の撮影会や月1回の撮影会、講習会、作品展など平成26年から6年間、デジタル講座等様々な行事を行い現在に至っています。また、並行して栃木読売写真クラブの6代目会長として毎月の学習会、撮影会、写真展、セミナー等とご活躍されました。主に風景写真、特に滝の撮影がお好きで仲間と一緒にいくと楽しいとおっしゃいました。2つ目の趣味として、やはりシルバー大学入学時から始めたそば打ちです。月1回そば店でアルバイトをしながら技術を磨き、現在はコロナ禍で十分な活動ができませんが、地域の集まりでの「そば打ち」や「そば打ち体験」を行い喜ばれています。さらに地域の自治会副会長として、集会場や公園の清掃にご活躍されています。



このように、お元気でお忙しい丸山さんですが、昭和58年に大病に罹り、闘病生活を経てお元気になり平成7年に退職され、近く米寿を迎えられます。元気の秘訣をお聞きしました所「1. 規則正しい生活 2. 大病後の経過観察の為年4回の健康診査 3. 意識して歩くこと」でした。毎日を有意義に、そして楽しくお過ごしされています。

③ 民話と放送大学とシルバー大学校と島田新一さん(前編)

取材:肥後特派員



「昔 茂木に欲の深い百姓の親父がいたと。この家には奉公しているおしまという娘がいてな・・・ある日、母親が病に倒れ、おしまは母に会いたいと頼み込んだ。親父は一番鶏が鳴くまでに田植えを終わらせば帰すと答える。おしまは夜通し植え続け、あとひと畝に迫る。それを見て驚いた親父は慌てて暗い田んぼに向かってコケコッコと鳴く。絶望したおしまは、田んぼに倒れ込み、息絶えてしまう。その後、その田んぼは、おしま田と呼ばれ今も荒地になっている」ご存じ栃木県の民話「おしま田」です。今回ご紹介する島田新一(しまだしんいち)さんは、栃木県の民話の中でもこの「おしま田」が大好きで数あるレパートリーの中

でも十八番の中の十八番です。ボランティアで語り部として披露した際、何人ものお年寄りを泣かせてきました。

島田さんは現在「藁座の会」に所属し、栃の木民話連合会の副会長の立場でも頑張っています。しかしこのコロナ禍、2年余りボランティア先で披露出来ていません。それでも今年11月26日に栃の木民話連合会の定期発表会である「第6回民話まつり」を南図書館で実施にこぎつけました。面白い話、怖い話、悲しい話、盛りだくさんで披露する事が出来ました。40もの出し物を用意しました。島田さんも今回は「おしま田」ではなくて「雪女」という民話を披露しました。東京都青梅市に伝わる恐ろしくも哀しいお話です。これも島田さんの好きな民話です。これを機にあちこち出かけて行って、お年寄りから子供まで民話を披露する機会が増えてくればと願っています。ボランティアの方でもオファーが増えていくことを願っています。

島田さんは昭和23年生まれの73歳。鹿児島県鹿屋市生まれの九州男児、いや「チェスト行け」の薩摩隼人です。それでも荒々しくない、心優しい薩摩隼人です。でも内に秘めた思いは熱いものがあります。宇都宮には転勤で住む事になりもう26年になります。

現在、市内横山にお住まいです。島田さんが宇都宮を終の棲家として考えたのは、町と自然が隣り合わせで災害の少ない土地柄で東京まで100kmの便利さなどが理由です。

島田さんは長年大手自動車会社で設計の仕事に携わっていました。しかし、長年心の中に秘めた思いがありました。理系の立場のこれまでの人生でしたが、文系の勉強をやり直したいという思いがずっとありました。そこで一念発起して放送大学に入学しました。2回目の大学入学です。

平成21年に入学し今年3月卒業しました。

全6コースを制覇しました。12年かかりました。頑張り通しました。この3月には学長表彰の盾を受賞しました。これまで栃木県で6人しか受賞していません。

(次号に続く)

